

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895  
FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### 都市の定義が変わる（その2、都心の高いビルから自然の中の低層ビル） 隈 研吾（建築家）

1. 今ある超高層の高密都市から、環境一体型の都市へ変わっていくだろう。都市だから高いビルが必要ということはない。これからは高いビルがおしゃれではないと見なされる可能性がある。もっと自然を大切に、環境と一体化した都市が変わっていくだろう。高いビルに住んでいる人ほどエリートというのは古い価値観だ。これからは都市の高いビルよりも、自然の中の低層のビルに本社を構える企業が増えてくるのではないかと。コロナはそのきっかけになる。
2. いま輝いているIT企業の本社の多くは、新しい高層ビルを渡り歩く形になっている。しかし、それは変わっていくだろう。人々におしゃれだと思われることがビジネスに直結する企業は、緑の中のオフィスや、リモートのワーキングスタイルなど、新しい本社のあり方を模索している。
3. 日本人は米国発の大箱型のシステムに優等生的に従ってきた。ここから変わるのには苦手かもしれない。しかし、都市構造としてみとる、江戸の町は決して大箱型ではない。低層型でストリートと建築は融合していた。日本人が新しい発見をする可能性は十分ある。（参考：「週刊東洋経済」2020年7月11日号）

## 新規成長分野

### サイゼリヤ、デリバリー参入へ

1. ファミリーレストラン大手のサイゼリヤが、7月からデリバリー大手、出前館のサービスを一部の店舗で実験導入する。店内飲食に強いこだわりを持っていたサイゼリヤ。コロナ禍でサイゼリヤもついにデリバリー導入へ動き出す。サイゼリヤはこれまで店内飲食に対して強いこだわりを持っており、デリバリーの導入に後ろ向きだった。
2. サイゼリヤでは、赤字を減らすべく、4月中旬から拡充しているテイクアウト商品が好評だ。店内飲食の不振とテイクアウトの好調を受け、出前館と組んで始まるデリバリー。しかし、どこまで浸透するか未知数だ。九州地盤のファミリーレストラン、ジョイフルとロイヤルホストなどを展開するロイヤルホールディングスも、不振脱却の一助としてデリバリーの活用を始めている。

（参考：「週刊ダイヤモンド」：2020年6月27日号）

## 経営者のための危機管理

### 居酒屋の2割消滅する（オフィス人口減少）

1. 日本フードサービス協会によると4月の居酒屋の売り上げは前年同月比90.3%減。日立製作所やNTTなど大手企業は次々に在宅勤務の継続を決めている。オフィス人口が減少すれば客の入りは落ちる。大手居酒屋は駅前などに多店舗展開するドミナント戦略で営業効率を高めてきた。大手のある幹部は「団体客の宴会は利益を出しやすいが、生活様式が変われば需要は戻らない。業態戦略を大きく変える必要がある」と危機感を募らせている。
2. いちよし経済研究所の鮫島誠一郎主席研究員は「オフィス人口の減少で、既存の居酒屋も2割前後は消滅するだろう」とみている。外食は実店舗でどれだけもうかるかに経営の軸足を置いてきた。今後はEC（電子商取引）やデリバリー、テイクアウトなど販路の拡大がカギになる。

（参考：「日経ビジネス」2020年6月22日号）

## 古典に学ぶ

### 本心に立ち戻る

（解説）もし余の意志が薄弱であって、それら幾多の変化や誘惑に遭遇した場合にうかうかと一步を踏み誤ったならば、今日あるいは取返しのつかぬ結果に到着していたかも知れぬ。しかるに余は幸にもさような場合に処するごとに熟慮考察し、色々心が動きかけたことがあっても中途から引返して本心に立ち戻ったので、40余年間まず無事に過ごして来るを得た。

（参考：渋沢栄一「論語と算盤」：国書刊行会）